
ロックンロール

haco

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロックンロール

【Nコード】

N3967G

【作者名】

h a c o

【あらすじ】

ロックって生き方そのものを指す、という個人的な想いからこの短篇を書いてみました。

目が覚めると部屋の中は熱を帯びた重たい空気で一杯になっていた。足で蹴るようにして窓を開ける。心地よい風が額をかすめる。抜けるような空が僕を見ていた。

枕元の煙草を手探りで探し、火を点ける。
渴いた喉に煙が流れ込むと少しずつ視界が開ける。

夢に人が出てきたのは久しぶりだ。

彼女はじゃがいもを蒸かしていた。
夢の中でも僕はベッドにこうしていて、土臭い甘い匂いがしているのを感じていた。昼はまたじゃがいものあれか、なんて考えて少し笑った気がする。

天井に吹き上げた煙が爽やかな風に横になる。台所の方へと寝返りを打つ。長く寝すぎて背中が痛い。今朝も出し損ねたゴミ袋が置いてある。夢の続きは起こりそうもない。

僕は床に落ちていたりモコンを足で持ってきて、テレビを点ける。
チャンネルのプラスボタンを連打する。面白くない。

腹が鳴る。ゆっくりと老人のように起き上がると、台所に放置していたダンボールを漁った。母ちゃんが送ってきたやつだ。僕はうどんのカップ麺を拾い上げ、ポットに水を注ぐ。

ロックを聴いていればお腹なんか空かない。

夢でここにこうして立っていた彼女の台詞を思い出す。僕はコンセ

ントを入れて銜えていた煙草を口から離す。

ロックって。

彼女は無類の音楽好きだった。お気に入りのバンドの長ったらしい名前が何度も会話の中に登場した。僕の部屋で何度もそいつらの曲を流した。

僕は何も感じなかった。

吸い終えた煙草をもみ消すとポットのランプが変わった。カップに火薬を開けてお湯を注ぐ。それをテーブルに運ぶと、再びベッドに寝転がる。

夏の気配漂う素敵な午後だ。近くの学校からバットの金属音が聞こえてくる。僕は覚ましたはずの眠気に再び襲われ始めた。ゆらゆらと汗の染み込んだタオルケットに飲み込まれる。今眠ったらうどんが食えなくなる。まぶたを落としてそう思った時だ。

あのロックってやつが聞こえてきた。

僕は重たい眼をテレビへ向けた。

確かに彼女のあのバンドだ。

再結成です！武道館は大盛り上がりです！

僕はあくびをひとつかました。

吸い込んだ空気にうどんのいいだしの匂いが混ざっている。僕は箸を取りに立ち上がる。テレビは動物園の話題へと変わる。ふーふー

つと最初の一口をすする。飲み込みながら僕は思う。

やっぱり何にも感じねえや。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3967g/>

ロックンロール

2011年1月23日15時28分発行